

# 学力向上チャレンジ校だより

平成 28 年 5 月 12 日  
(八次中学校区研究推進地域 第 1 号)

第 1 回学力向上チャレンジ協議会及び第 1 回家庭教育支援チーム協議会へのご参加ありがとうございました。今回の協議会の内容や指導助言を以下にまとめております。今年度は、国語、算数、数学にとどまらず、全教科・全職員での取組へと広げていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

## 研究テーマ 児童生徒が主体的に取り組む「習得」の学習活動の充実

### (1) 学力向上チャレンジ協議会

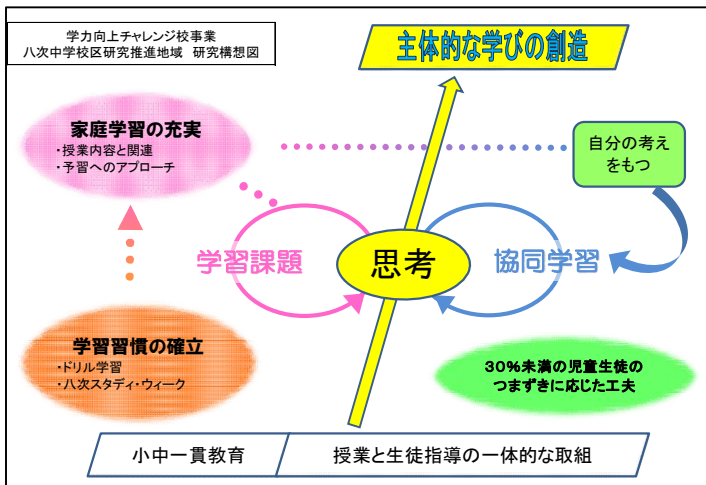
【昨年度の課題】①学力調査の結果…小中とも、母集団平均を下回っている。

②授業における思考…情報を比較・分類・関連づけしている児童生徒の割合が低い。

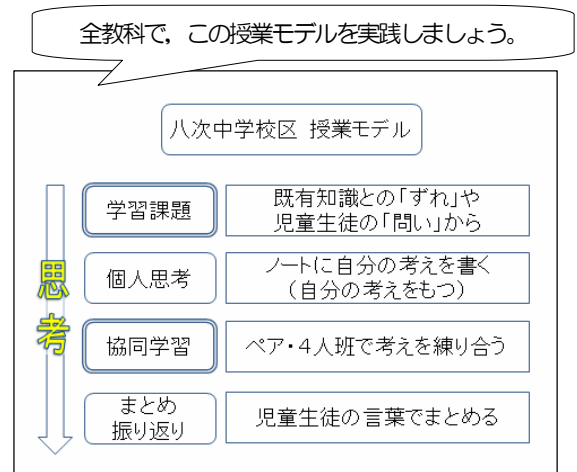
【今年度の取組】①全教科で「思考」を深めることを核として、授業改善に取り組む。

②研究協議の視点の改善により、協議内容を焦点化し、授業研究をつなげていく。

③フィードバックシートの活用を継続することで、研究の視点の共有と、取組の継続的な見取りを行う。



【研究構想図】



【授業モデル】

### 指導助言

<広島県教育委員会 豊かな心育成課 小島指導主事 より>

- ・服装や教室環境など、ささいなことでも必ず指導をする。 ⇔ 日常的な生徒指導
- ・学級全体を学習へ向かせるために、指導者は課題がある児童生徒へまなざしを向ける必要がある。
- ・児童生徒の興味・関心、学習意欲につながる学習課題の提示 ⇒ 主体的な学び

<広島県北部教育事務所 教育指導課 渡辺指導主事 より>

- ・昨年度の課題を踏まえており、シンプル化・汎用化、チャレンジする姿勢が見られる。
- ・取組について定期的な見取りや、他の授業研でのフィードバックシートの活用をしていく。

<三次市教育委員会 学校教育課 新谷指導主事 より>

- ・本事業の取組と成果を上げている学校の特徴につながりがある。
- ・評価問題の結果の交流や共有を行う。

中学校では、①机の位置をそろえる  
②カバンを右にかける  
③ごみを拾う  
という3点に取り組んできました。

- ・家庭学習の指導
- ・管理職のリーダーシップと同僚性の構築
- ・小中連携教育の推進
- ・言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- ・学力調査の積極的な活用
- ・基礎・基本の重視と少人数指導
- ・放課後や長期休暇での補習

(2) 家庭教育支援チーム協議会

- 【昨年度の成果と課題】
- 授業で予習するようにしている生徒の割合が向上した。
  - 家庭学習時間の増加が見られた。
  - 30%未満の児童生徒の割合がゼロになっていない。
  - 自分で勉強の計画を立てている児童生徒の割合が低下している。



- 【今年度の取組】
- ①授業内容と関連した家庭学習の充実を図る。
  - ②八次スタディ・ウィークの取組を継続し、学習習慣を確立する。
  - ③個別の指導計画の対象児童生徒へのチーム支援を行う。



児童生徒	前期目標	後期目標

<家庭教育支援アドバイザー 瀬尾先生より>

担任や教科の先生だけでなく様々な先生で、様々な面（学習面・心理面・健康面等）から取り組んでいくような「チーム支援」が必要である。

<民生主任児童委員 桑田さんより>

子供についてのたくさんの情報が必要である。地域全体として、夜遅くゲーム等をする子供が増えているように思う。

**指導助言**

<広島県教育委員会 豊かな心育成課 小島指導主事 より>

・家庭教育支援アドバイザーを効果的に活用する。

→①情報交流の場の設定 ②適切なアセスメントとプランニング ③関係機関との連携

・家庭教育支援アドバイザーは黒子に徹する。

<広島県北部教育事務所 教育指導課 渡辺指導主事 より>

・ノートの変容など、数値以外での変容を見取るなど、児童生徒の分析をしっかりとる。

<三次市教育委員会 学校教育課 新谷指導主事 より>

・家庭教育支援アドバイザーや市教委などとの連携を丁寧に行っていく。